

第八次椿会 ツバキカイ 8 このあたらしい世界

杉戸洋、中村竜治、Nerhol、ミヤギフトシ、宮永愛子、目 [mé]

開催のお知らせ

資生堂ギャラリーでは、2021年6月5日（土）から8月29日（日）まで、「第八次椿会 ツバキカイ 8 このあたらしい世界」を開催します。

「椿会」は、第二次世界大戦で一時中断していた資生堂ギャラリーの活動を、1947年に再開するにあたり誕生したグループ展です。資生堂のコーポレートマークである花椿にちなんで名づけられ、アートが人々に希望を与え、勇気をもたらすという信念に基づき、戦争や災害、不況などで世の中が閉塞状況にあるときにも再興を願い開催してきました。誕生から70年以上にわたり、時代とともにメンバーを入れ替えながら、資生堂ギャラリーを代表する展覧会として継続し、これまで合計86名の作家に参加いただきました。

本年より、新しく第八次椿会がスタートします。メンバーは、杉戸洋、中村竜治、Nerhol（ネルホル）、ミヤギフトシ、宮永愛子、目 [mé]。この6組は、ジャンルを超えた活動やコラボレーションやチームでの制作などを行う、今の時代を代表するアーティストたちです。この6組のアーティストたちと共に、今年から2023年までの3年間をかけてafterコロナの「あたらしい世界」について考えていきます。各年を「2021 触発 / Impetus」、「2022 探求 / Quest」、「2023 昇華 / Culmination」と位置づけ、プロセスを踏みながら新たな問いを見出し、深めていく作業をおこなっていきます。

今年、「触発 / Impetus」をテーマに、資生堂がこれまでの椿会展で蒐集してきた美術収蔵品から、メンバーが「あたらしい世界」を触発される作品を選びます。選んだ収蔵品と、それに対する応えを自身の作品や方法で提示することで、収蔵作品に新たな視点を加え未来へとつなげることを試みます。2022年には、メンバー同士でのコラボレーションや異分野の専門家と交流し、初年に生まれた問いや気づきを「探求」し、そこから生まれる作品を展示します。最終年の2023年には、3年間の活動を「昇華」させる展示を行います。

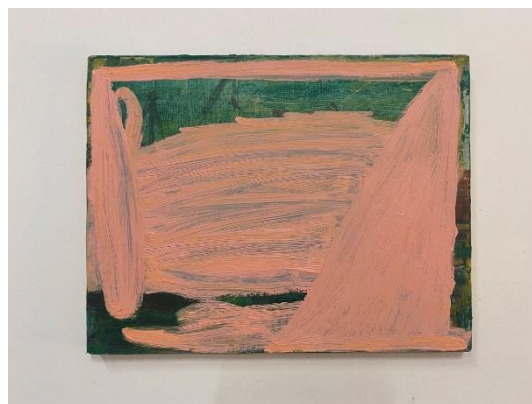
また、資生堂ギャラリーホームページ上に第八次椿会の特設ページを設け、展覧会では伝えきれない情報や、プロセス、記録などを掲載し、展覧会やホームページを訪れる人たちとのコミュニケーションも図っていく予定です。

今、我々の住む世界は大きな転換期にあります。先の予測ができない不確かな時代において、アートは未来を知るヒントや勇気を与えてくれます。資生堂ギャラリーは、椿会を通して、アーティストと人々が出会い、対話を通して、さまざまな新しい価値観を共有し、感化し合えるオープンな場となることを目指します。

■ 出展作家

杉戸 洋 (すぎと ひろし)

1970 年愛知県生まれ。92 年、愛知県立芸術大学美術学部日本画科卒業。小さな家や、空、舟などのシンプルなモチーフを好んで描き、繊細かつリズムカルに配置された色やかたちが特徴。2016 年の個展「杉戸洋——こっぱとあまつぶ」（豊田市美術館）では、建築家・青木淳とコラボレーションし、会場を構成したほか、17 年の東京での美術館初個展「杉戸洋 とんぼ と のりしろ」（東京都美術館）では前川國男が設計した美術館の展示空間と呼応するような幅 15 メートルの大作《module》（2017）を発表した。武蔵野美術大学美術館で 2021 年開催の「オムニスカルプチャーズ—彫刻となる場所」では、会場構成を担当。平成 29 年度（第 68 回）芸術選奨、文部科学大臣賞受賞。



杉戸洋《Untitled》2021 年
oil on canvas
320×410 mm

中村竜治 (なかむら りゅうじ)

建築家。1972 年長野県生まれ。東京藝術大学大学院修了後、青木淳建築計画事務所を経て、2004 年中村竜治建築設計事務所を設立。主な作品に、「へちま」ヒューストン美術館、サンフランシスコ近代美術館収蔵（2010、2012 年）、「JINS 京都寺町通」（2016 年）、「神戸市役所 1 号館 1 階市民ロビー」（2017 年）、「FormSWISS」東京・神戸展展示空間（2020、2021 年）など。資生堂との作品に、資生堂ギャラリー「BEAUTY CROSSING GINZA ～銀座+ラ・モード+資生堂～」展示空間（2016 年）、「資生堂ビューティ・スクエア」（原宿）店舗空間（2020 年）など。主なグループ展に、「建築はどこにあるの？ 7 つのインスタレーション」東京国立近代美術館（2010 年）、「反重力」豊田市美術館（2013 年）など。主な受賞に、第 6 回京都建築賞優秀賞（2018 年）、第 32 回 JIA 新人賞（2020 年）など。



中村竜治 《FormSWISS 神戸展空間設計》
2021 年
撮影：Takato Miyoshi

Nerhol (ネルホル)

田中義久と飯田竜太の二人からなるアーティストデュオ。連続撮影をした数百枚のプリントを束ね、彫り込むことで生まれる立体作品を発表後、ポートレート、街路樹、動物、水、あるいはネット空間にアップされた記録映像等、様々なモチーフを選びながら、それらが孕む時間軸さえ歪ませるような作品を制作。そこでは一貫して、私たちの日常生活で見落とされがちな有機物が孕む多層的な存在態を解き明かすことを試みている。主な個展「Interview, Portrait, House and Room」Youngeun Museum of Contemporary Art、韓国（2017）、「Nerhol Promenade/プロムナード」金沢21世紀美術館（2016）。2020年VOCA賞受賞。



Nerhol 《Girls Reading a Newspaper》
2020 年
745 x 1010 mm

ミヤギフトシ (みやぎふとし)

1981 年、沖縄県生まれ。2005 年、ニューヨーク市立大学卒業。現代美術作家としての主な個展に「In Order of Appearance」miyagiya (2021年)、「How Many Nights」ギャラリー小柳 (2017 年)、「American Boyfriend: Bodies of Water」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (2014 年)など。2012 年にスタートしたプロジェクト「American Boyfriend」では、沖縄で沖縄人男性とアメリカ人男性が恋に落ちることの関係性等をテーマに、作品制作やトークイベントの開催などを行なっている。自身のアイデンティティや出身地の沖縄、アメリカ文化など題材とした映像や写真作品だけでなく、小説も発表。



ミヤギフトシ 《The Protagonist》2021 年
ラムダプリント
118x177 mm

宮永愛子 (みやなが あいこ)

1974 年生まれ。京都府京都市出身の現代美術家。第 3 回シセイドアートエッグ出身。京都造形芸術大学美術学部彫刻コース卒業。東京藝術大学大学院美術学部先端芸術表現専攻修了。平成 18 年度文化庁新進芸術家海外留学制度によりエジンバラ (イギリス) に 1 年間滞在。第 22 回五島記念文化賞美術新人賞を受賞し、2011 年からアメリカ・中南米で研修。日用品をナフタリンでかたどったオブジェや、塩を使ったインスタレーションなど、気配の痕跡を用いて時を視覚化する作品で注目を集める。主な個展「うたかたのかさね」京都市文化博物館 (2020 年)、「宮永愛子：漕法」高松市美術館 (2019 年)。2019 年度文化庁芸術選奨美術部門新人賞受賞。アートエッグから初めての椿会メンバー。



宮永愛子 「第 3 回 shiseido art egg
宮永愛子展 地中からはなつ島」2009 年より
撮影：加藤健

目 [mé] (め)

目 [mé] は、日本の現代芸術活動チーム。不確かな現実世界を、私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開。手法やジャンルにはこだわらず、展示空間や観客を含めた状況、導線を重視。創作方法は、現在の中心メンバー(アーティスト荒神明香、ディレクター南川憲二、インストーラー増井宏文)の個々の特徴を活かしたチーム・クリエーションに取り組み、発想、判断、実現における連携の精度や、精神的な創作意識の共有を高める関係を模索しながら活動している。資生堂ギャラリー『たよりない現実、この世界の在りか』(2014) や、「目 [mé] 宇都宮美術館屋外プロジェクト『おじさんの顔が空に浮かぶ日』(2013-14) 、さいたまトリエンナーレ 2016 への参加、千葉市美術館『目 [mé] 非常にはっきりと わからない』(2019) などが話題を呼んだ。



目 [mé] 《Elemental Detection》2016 年
旧民俗文化センター、さいたまトリエンナーレ 2016
参加作品

■「第八次椿会 ツバキカイ 8 このあたらしい世界」開催要項

主催：株式会社 資生堂

会期：2021年6月5日（土）～8月29日（日）

会場：資生堂ギャラリー

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-8-3 東京銀座資生堂ビル地下1階

tel. 03-3572-3901 fax. 03-3572-3951

URL: <http://group.shiseido.co.jp/gallery> (資生堂ギャラリー)

平日 11:00～19:00 日・祝 11:00～18:00

毎週月曜休（月曜日が休日にあたる場合も休館）及び 8月16日（月）～23日（月）夏期休館

入場無料

※新型コロナウイルス感染症の状況により、内容およびスケジュールに一部変更等が生じる可能性があることを予めご了承ください。

■関連企画は詳細が決まり次第、資生堂ギャラリーHPにてお知らせします。

■ 本展に関するお問い合わせは下記までお願いします。

105-8310 東京都港区東新橋 1-6-2

株式会社 資生堂 社会価値創造本部 アート&ヘリテージ室 担当：豊田

tel. 070-3852-2796 （10:00～17:00 土日祝休）

e-mail: keiko.toyoda@shiseido.com

■ 写真資料請求は下記までお願いします。

資生堂ギャラリー 担当：永田・大橋

tel. 03-3572-3901 （11:00～18:00 月曜休）

e-mail: ayako.nagata@shiseido.com, noriko.ohashi@shiseido.com